

令和 5 年 12 月 14 日
(2023年)

保護者の皆様

吹田市立青山台中学校
校長 宮本和彦

令和 5 年度 全国学力・学習状況調査の分析について

初冬の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年度3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」が実施され、8月下旬に各個人の結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施された調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も三教科に限られます。それゆえ、測定されたものは学力の一部で、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえながら、調査によって得られた本校における課題の一部を分析し、様々な側面からその改善に取り組むことが、調査本来のねらいであると考えられます。

対象となった3年生には、一層きめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として、学力向上につながる課題に応じた具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果についてご理解をいただき、今後の家庭学習の指針として、ご活用いただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

国語

《概要》

生徒の平均正答率は全ての観点において全国・府平均を上回っていることから、出題された学習内容を概ね理解していると考えられる。しかしながら、全国的な傾向ではあるが、記述式で解答する設問においての正答率が低いことは課題として挙げられる。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

〈知識及び技能〉

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項については、全ての設問において正答率が全国・府平均を上回っている。しかし、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」という趣旨の設問に関しては、無回答率が全国平均・府平均より下回ってはいるが、他に比べると高い結果となっている。
- (2) 情報の扱い方に関する事項についても、正答率が全国・府平均を上回っている。
- (3) 我が国の言語文化に関する事項についても、正答率は全国・府平均を上回っており、無回答率も低い結果となっている。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- A 「話すこと・聞くこと」に関しては、全ての設問において正答率が全国・府平均を上回っており、特に「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」という趣旨の設問に関しては、正答率が高いという結果になった。
- B 「書くこと」に関しても、は正答率が全国・府平均を上回ったが、他の領域の設問に比べると正答率が低いという結果となっており、自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書くということに慣れていないことがうかがわれる。
- C 「読むこと」についても、全体としては正答率が全国・府平均を上回っている結果であるが、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」という趣旨の設問の無回答率が、他の設問に比べてやや高い結果となっており、読み取りに終始するのではなく、自身で解釈をしながら読むことが必要だと思われる。

国語全般において、文章を読んで理解し、それに対する自身の考えを持ち、それを文章で表現する力を高めることがより一層必要だと考える。また文章を書くだけでなく、根拠をもって自分の意見を話すという力の向上も課題である。

意欲の高さと知識の習得が進んでいることを足掛かりとして、今後も工夫した教育活動を展開する。

数 学

《概要》

全ての観点において全国・府平均を上回っている。しかしながら、全国平均と同様に本校でも記述式の問題形式に関する設問の正答率が低いため、重点的に取り組む必要があると考えられる。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ① 「数と式」の項目においては正答率が全国・府平均を大きく上回っており、全体として理解ができていると判断できる。ただ、「自然数の意味の理解」や「成り立つ事柄を見出し、説明することができる」という出題趣旨の問題では、全国・府平均を正答率で上回っているといえ、本校の正答した人数は半数程度である。
- ② 「図形」と「関数」の項目に関しても正答率は全国・府平均を大きく上回っている。しかしながら、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に読み取ることができる」及び「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて、証明することができる」という出題趣旨の問題では、多くの生徒が論理的に正しく記述ができていない。
- ③ 「データの活用」の項目に関しての正答率は全国・府平均を上回っている。ただし、「複数のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」、という出題趣旨の問題では、正答率が50%に満たなかった。

数学全般の課題として考えられるのは、記述式の問題形式に対する正答率が低く無解答率

が高い傾向にある点である。全国・府平均でも同じ傾向にあるが本校も同じような結果となっている。また、無回答率の高い設問では、記述式に加え、A4用紙4ページ分にわたる長文の出題形式によるものもあり、これも全国的な傾向ではあるが、数学的な読解力・表現力に課題があるのは明らかである。ただし、ほとんどの設問で、無回答率が全国・府平均を下回っていて、本校生の課題に対する意欲は非常に高いと評価できる。

本校における今後の指導のポイントとして、問題解決の場面において、その解決に至る過程をノートに記述させる活動や考えたことを数学的な表現を用いて的確に表現できるように他者へ説明する活動を積極的に取り入れていくことが大切であると考えられる。また、テスト問題においても、一問一答形式の出題のみでなく、生徒の数学的な考え方や見方を見取ることができるような記述式の問題も出題し、生徒の思考力・判断力・表現力を適切に評価し、授業にフィードバックしていくことも必要であると考えられる。

英語

《概要》

「聞くこと・読むこと・書くこと」の平均正答率は全国・府平均を大きく上回っていることから、出題された学習内容をよく理解していると考えられる結果であった。

「話すこと」に関しても平均正答率は全国平均を上回っていることから、上記と同じく学習内容の理解度は高いと考えられる。

全体を通して、学習内容の理解は深い、「話すこと」の平均正答率が全国平均を上回ったものの、結果としての数値が低いことから「意見を英語で述べる」という部分で課題が残ると考えられる。

生徒の平均正答率は全ての観点において全国・府平均を上回っていることから、出題された学習内容を概ね理解していると考えられる。しかしながら、全国的な傾向ではあるが、記述式で解答する設問における正答率が低いことは課題として挙げられる。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

「聞くこと」に関しては、すべての問題において、全国・府平均を大きく上回り、確実に聞き取る力がついているといえる結果であった。

「読むこと」に関しては図書館について書かれた英文を読んで、その問題に対する自分の答えを書く設問の正答率が4割程度で、全国・府平均並みの結果であった。

「書くこと」に関しては、「学校生活の中から紹介したいものを1つとりあげ、それを説明する文章を書く」設問で、正答率が2割弱と低く、英語で説明する力をよりつけていく必要がある。

「話すこと」に関しては「環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えと理由を伝える」設問で正答率が1割強と低い結果であった。

全体的に学習内容の理解はできているが「自分の伝えたいことを英語で表現する」というステップが課題と考えられる。全体的な無回答率の低さと平均正答率の高さから意欲も高く、一定の知識も身につけているが「正しい英語」で自分の意見を伝える力を育成する授業が求められる。あるトピックスでの賛成・反対の意見やその理由を記述させる活動や「AETとの英語による面接試験」のような活動を授業で展開していきたい。

2 生活習慣や学習、学校生活及び自分自身のこと等に関する質問紙調査の傾向

【生活習慣・学習について】

- ・全国の傾向と同じく、本校でも朝食の摂取、起床と就寝時間は定まっている生徒が多い。
- ・「読書が好き」「自分で計画的に勉強している」との回答は府平均値より高く、学習塾等も含め学校以外での勉強について、平日2時間以上勉強をしている回答した生徒は50%を超えている。
- ・「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」「情報を集め、整理し調べたことを発表する」など話し合いや発表に前向きに取り組んでいると回答した生徒の割合が全国値を大きく上回っている。
- ・どの教科の勉強も大切と考え、授業で学んだことが将来社会に出たときに役立つと考える割合が高く、また、それまでに学んだことを活かして新たに取り組もうとするようすが伺える。

【学校生活や自分自身について】

- ・友達との関わりについて、「友達関係に満足している」や「自分と違う意見について考えるのは楽しい」など、他者と交流を好意的に回答した割合が高かった。
- ・「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」について、全国値を上回っている。
- ・「学校へ行く」ことが「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答した生徒の割合も全国値より高かった。

3 今後の取り組み

本調査の結果により分析した内容は、貴重な資料と捉え、本校の教育活動全体の工夫や改善のために活用いたします。そして、本校の学校教育目標「将来を自分らしく立派に生きていく大人としての中学生の育成」を達成するための取り組みをさらに進めてまいります。

また、生活習慣や自分自身に関する結果を踏まえ、生徒の自尊感情や自己有用感の充実が継続されるよう、今後とも家庭と学校との連携を図りながら教育活動を展開していきたいと思っておりますので、ご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。